

## 面縄リュウキュウマツ遺伝資源希少個体群保護林の現況について

### 1 H31 年度保護林モニタリング調査 報告内容 (※報告書 p198 より抜粋)

#### 保護林の評価

現地における調査結果を踏まえた保護林の評価を、以下に記す。(中略)

低木層はボチ ヨウジやスダジイなどの小径木が豊かに繁茂し、林内の見通しは非常に悪い。草本層も出現種数が多く、種多様性が見られた。

希少種として、シロミズやケハダルリミノキが優占種としても確認された。また植生調査区外のリュウキュウマツの枯損木において、ナゴランの着生も確認された。この他、鳥類のカラスバトやアカヒゲが確認され、当保護林がこれら希少種の生育・生息にとって重要な環境となっていることが確認された。

しかし、マツ枯れ被害が2プロットともに確認され、プロット外に生育する個体もほぼ全てが枯れており、森林更新への影響が懸念される。また、後継個体も確認されない。

なお、保護林を含む島全域でマツノサイセンチュウによる病虫害が認められ、被害は深刻な状況であった(写真 4-17-8-1～3)。



写真 4-17-8-1 保護林及びその周辺におけるリュウキュウマツの枯損  
(赤枠内が保護林)



写真 4-17-8-2 保護林周辺におけるリュウキュウマツの枯損



写真 4-17-8-3 保護林周辺におけるリュウキュウマツの枯損

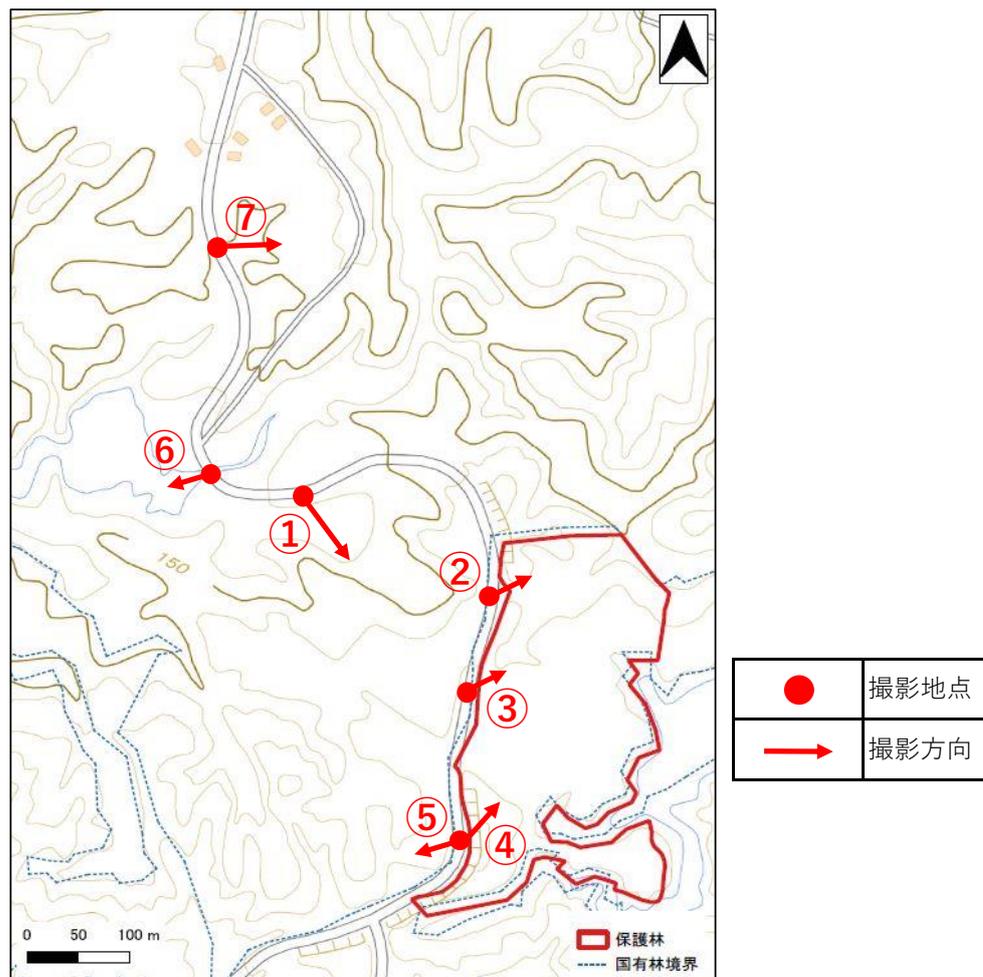
## 2. 現在の様子

森林官による現地確認の結果、平成31年度保護林モニタリング調査の報告と同様に、保護林内では健全なリュウキュウマツ生立木はほとんど残っておらず周縁部で生残木がわずかに確認されるにとどまった。後継樹もほとんど無く、現状では在来の常緑広葉樹に置き換わりつつある。周辺の民有林でも同様の状況であった。

撮影日：令和2年8月31日

撮影者：徳之島事務所 宮田首席森林官

撮影位置図



(1) 面縄リュウキュウマツ遺伝資源希少個体群保護林

①

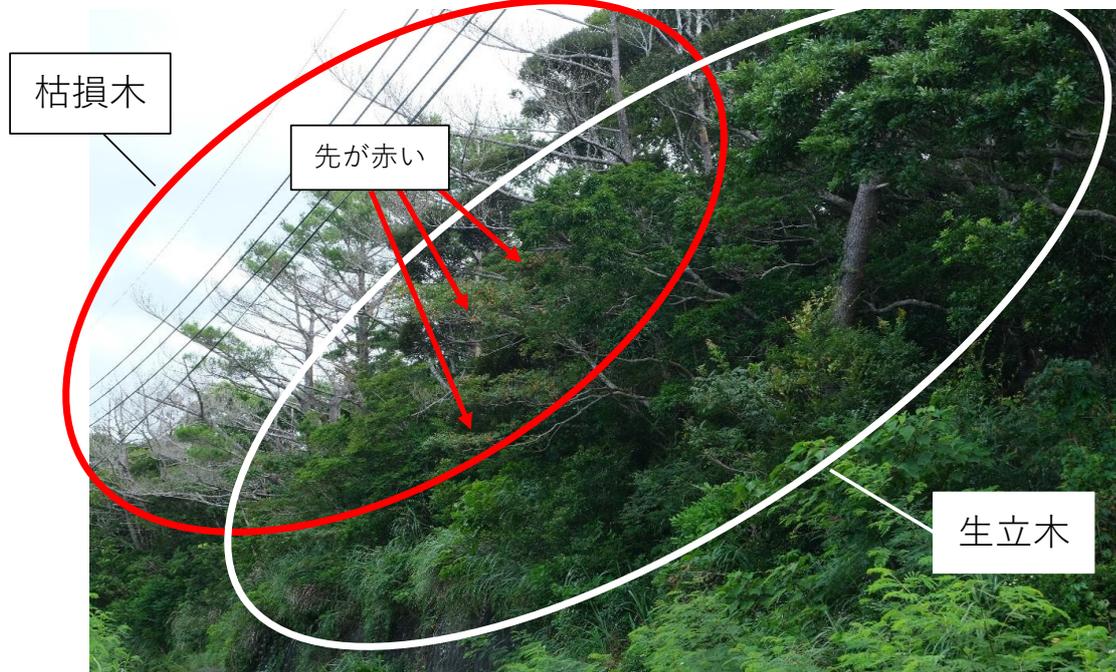


②



(1) 面縄リュウキュウマツ遺伝資源希少個体群保護林

③ 生立木には先枯れが見られる



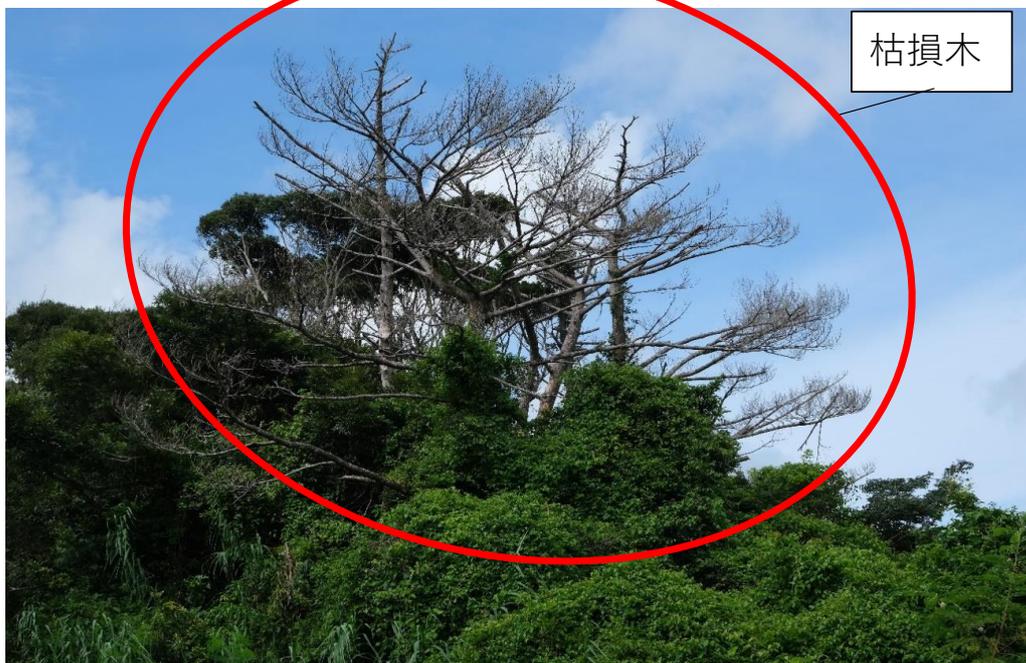
④ 稚樹はまだ病虫害を受けていない



(2) 民地

⑤、⑥共に個体サイズの大きいリュウキュウマツは被害を受け、未だ大きなサイズに至っていない個体では生育している状態

⑤



⑥



(2) 民地

⑦

